

## 学校の“あたりまえ”が変わり、 教育のあり方も問われるなか これからも大切にしたい心の教育

### 新規の看板に振り回されず 積み重ねてきた基本を大切に

本校には、私と同じ洛南出身の教員が多数おります。当時は男子校でしたが、「生活即学習」を合言葉に、毎朝校門で交わされる挨拶や、放課後掃除に精を出す様は今も変わりません。日常のすべてに自分を磨く教えがあるという「雑事は仏事」という考えの下、学校生活が営まれています。原則3年間クラス替えがなく、クラス対抗行事に熱が入るのも当時のまま。学祖、弘法大師空海の御入定の日(命日)にあたる毎月21日に、中1から高2の生徒が講堂に会し御影供<sup>みえく</sup>という法会を実施することも変わりません。仏教の教えに触れ、自らの生き方を自省する大切な時間であり、この日は授業もなく昼には下校します。

学校のあたりまえが問い直されるなか本校でも、多様な学力観に応じた独自のコース編成や個別最適な学習、主体性や協働性を育む教育プログラムの導入を進めてきました。しかし、多くを学ぼうとすれば一つひとつの学びは浅薄になり、何かを重点的に学ぼうとすれば、他の何かを身につける機会を失いかねません。新規の看板に振り回されるのではなく、

長年積み重ねてきた基本の育成に関与したい。そこが心の教育であり、人間教育です。本校は毎年多数の京都大学合格者を出すとともに、スポーツが盛んな学校です。希望の進路を保障することは大切ですが、心の教育なくしてバランスの取れた人間は育ちません。学祖は「物の興廃は必ず人に由る 人の昇沈は定めて道にあり」という言葉を残しました。すべては人の生き方、歩み方にかかっているわけです。本校の学校案内には、最新の教育や進学実績以前に、心の教育や生活習慣について多くのページを割いており、そうした点にも確固たる姿勢が表れています。

### 多様な機会があることで 新しい扉が開かれるはず

本校には、知の高みを追求し最難関大学に挑戦する「空パラダイム」と「海パラダイム」という2つの学習プログラムを用意しています。後者はさらに、教科学習を究める「αプログラム」と、課外活動で自己実現を図る「βプログラム」に分かれますが、αβ混成のクラスもあります。つまりは、スポーツの全国大会で優勝を狙う生徒と、難関大学志望の生徒が机を並べて学ぶわけです。また、6月のバレーボール

大会から2月の柔道大会・バスケットボール大会に至る多数のクラス対抗行事ほか、学校行事が盛りだくさん。多様な機会があることで、さまざまなタイプの生徒に活躍の場が与えられています。ぜひ、嫌いなことや興味がないことにも、積極的に挑戦してほしい。試しにやってみることで、新しい扉が開かれるはずです。

それを後押しするのが、母校愛にあふれ、生徒や保護者と密に関わる本校の教員です。なかでも生徒と担任の交換日記ともいえる週番日誌は、手書きによる温度感が伝わる大切なコミュニケーションツールです。担任時代、ある生徒から「騙されたと思って、この本を読んでください」と勧められたことがありました。自分では手に取らない作家でしたが、非常に面白く勉強にもなりました。このように生徒・教員を問わず、日常すべてに学びがあふれている学校です。さまざまなことを体験し、自らの殻を破る機会にしてほしいと思います。

きたがわ・たつお／1952年生まれ。京都教育大学教育学部卒業後、洛南高校に英語科教諭として着任。2003年より6年間学年主任。図書館長、教務部長、副校長を経て2019年より校長。2024年5月より法人理事長を兼務。読書や新聞などから常に情報を収集し校長講話などで発信。スポーツ観戦に熱心で、積極的に応援に駆け付ける。